

第175回 全経簿記検定試験 上級 一会计学一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保障するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題1

- 「売上及び仕入の値引き等の相殺表示」⇒ 財務諸表等規則 第3章第2節 72, 79条
- 「資産及び負債に適用する流動性配列法」⇒ 財務諸表等規則 第2章第1節 13条
- 「長期性預金の貸借対照表の表示箇所」⇒ 企業会計原則 注解16
- 「売買目的から満期保有目的への変更の禁止」⇒ 金融商品会計に関する実務指針 85項
- 「資産除去債務の負債計上額の十分性」⇒ 資産除去債務に関する会計基準 34項
- 「期待運用収益の計算方法」⇒ 退職給付に関する会計基準 23項
- 「失効した新株予約権の処理方法」⇒ スtock・オプション等に関する会計基準 9項
- 「四半期財務諸表の性格付けについて」⇒ 四半期財務諸表に関する会計基準 39項
- 「為替換算調整勘定の表示について」⇒ 外貨建取引等会計処理基準 三の4
- 「包括利益の計算方法と定義の関係」⇒ 包括利益の表示に関する会計基準 27項

問題2

問1⇒ 会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準 4項全般を参照。

≧参考≧ 会計上の変更・誤謬の訂正の処理方法

| 会計上の原則的取扱い | |
|------------|------------------|
| 会計上の変更 | |
| 会計方針の変更 | 遡及処理する(遡及適用) |
| 表示方法の変更 | 遡及処理する(財務諸表の組替え) |
| 会計上の見積りの変更 | 遡及処理しない |
| 過去の誤謬の訂正 | 遡及処理する(修正再表示) |

問2 企業会計原則 注解12参照。なお、これ以外にも適切な解答であれば正答となる。

問3 会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準 17項参照。

※ 固定資産の耐用年数の変更は、会計上の見積りの変更に該当するから、17項が適用される。

問4

◇先入先出法の場合

- ・期首残高：20個×@310,000円=6,200,000円
- ・期中仕入高：60個×@320,000円+80個×@330,000円=45,600,000円
- ・期中払出高：20個×@310,000円+60個×@320,000円+40個×@330,000円=38,600,000円
- ・期末残高：(20個+60個+80個-50個-70個)×@330,000円=13,200,000円

◇総平均法の場合

- ・期首残高：20個×@300,000円=6,000,000円
- ・期中仕入高：60個×@320,000円+80個×@330,000円=45,600,000円
- ※平均単価：(6,000,000円+45,600,000円)÷(20個+60個+80個)=@322,500円
- ・期中払出高：(50個+70個)×@322,500円=38,700,000円
- ・期末残高：(20個+60個+80個-50個-70個)×@322,500円=12,900,000円

問5

| | | | | | |
|-----|---------|---------|-----|-------------------|---------|
| (借) | 繰越利益剰余金 | 300,000 | (貸) | 商 品 ^{*1} | 300,000 |
|-----|---------|---------|-----|-------------------|---------|

※ 期首商品の修正額：問4の表より、前期末残高の差額13,200,000円-12,900,000円=300,000円
⇒ 先入先出法から総平均法に変更したことで、商品が300,000円減少したことを修正する。

| | | | | | |
|-----|----------------------|---------|-----|---------|---------|
| (借) | 繰延税金資産 ^{*2} | 120,000 | (貸) | 繰越利益剰余金 | 120,000 |
|-----|----------------------|---------|-----|---------|---------|

※ 上記商品の修正によって、前期の売上原価が変動する。したがって、税効果会計を適用し、法人税等を調整する。

問6 解答参照。

問題3

① 新株予約権の権利行使

| | | | | | |
|-----|-----------|--------|-----|-----------|--------|
| (借) | 当 座 預 金 | 21,200 | (貸) | 資 本 金 | 11,000 |
| (〃) | 新 株 予 約 権 | 800 | (〃) | 資 本 準 備 金 | 11,000 |

※ 400個×2千円=800千円

※ 22,000千円(払込金額合計)÷2=11,000千円(資本金及び資本剰余金の増加額)

② 剰余金の配当

| | | | | | |
|-----|-----------------|-------|-----|-----------|-------|
| (借) | 繰越利益剰余金 | 2,160 | (貸) | 利 益 準 備 金 | 160 |
| | | | (〃) | 未 払 配 当 金 | 2,000 |
| (借) | そ の 他 資 本 剰 余 金 | 540 | (貸) | 資 本 準 備 金 | 40 |
| | | | (〃) | 未 払 配 当 金 | 500 |

※ 準備金積立額：200,000千円(資本金)÷4-41,000千円(資本準備金)-8,800千円(利益準備金)=200千円

∴ 積立はあと200千円すればよいので、配当原資の比率(繰越利益剰余金2,000：その他資本剰余金500)で按分する。

◇ 繰越利益剰余金：200千円×2,000千円/(2,000千円+500千円)=160千円

◇ その他資本剰余金：200千円×500千円/(2,000千円+500千円)=40千円

③ 新築積立金の取崩し

| | | | | | |
|-----|-----------|-------|-----|---------|-------|
| (借) | 新 築 積 立 金 | 3,000 | (貸) | 繰越利益剰余金 | 3,000 |
|-----|-----------|-------|-----|---------|-------|

④ 自己株式の処分

| | | | | | |
|-----|---------|-----|-----|-----------------|-----|
| (借) | 当 座 預 金 | 780 | (貸) | 自 己 株 式 | 720 |
| | | | (〃) | そ の 他 資 本 剰 余 金 | 60 |

⑤ 当期純利益の計上

| | | | | | |
|-----|-----|-------|-----|---------|-------|
| (借) | 損 益 | 1,800 | (貸) | 繰越利益剰余金 | 1,800 |
|-----|-----|-------|-----|---------|-------|

解答用紙の空欄について、本来「新株予約権(株主資本以外の項目)の当期変動額」を純額で記載する欄が必要と思われるが、すべての欄が埋まってしまいそのような解答が作成できない。したがって、解答ではやむを得ず「新株の発行」の欄に記載することとした。なお、このような表示方法は原則ではないものの、認められないわけではない。ただ、本来であれば、問題に指示がない以上、(スペースが十分にあれば)「株主資本以外の項目の当期変動額」を記載すべきである。